

平成27年度ダイオキシン類環境調査結果について

中巨摩地区広域組合清掃センターが平成27年度中に実施したダイオキシン類環境調査結果は、次のとおりである。

1. 調査の目的

清掃センターの煙突から排出されるダイオキシン類の環境中の濃度測定を行い、周辺環境へ及ぼす影響を調査する。

(1) 大気

調査場所		平成27年度	環境基準値	単位
東花輪第2自治会公民館	第1回目	0.028	0.6以下	pg-TEQ/m <sup>3</sup> N
	第2回目	0.055		pg-TEQ/m <sup>3</sup> N
桜自治会公民館	第1回目	0.022		pg-TEQ/m <sup>3</sup> N
	第2回目	0.060		pg-TEQ/m <sup>3</sup> N

※調査実施日 公民館 2地点 第1回目：平成27年6月16日～6月23日（8日間）  
第2回目：平成26年12月9日～12月16日（8日間）

(2) 周辺地下水

調査場所	平成27年度	環境基準値	単位
清掃センター敷地内地下水	0.091	1以下	pg-TEQ/L
東花輪第2自治会北部	0.039		pg-TEQ/L

※調査実施日 周辺 2地点 平成27年11月25日

(3) 周辺河川水

調査場所	平成27年度	環境基準値	単位
東花輪川	0.170	1以下	pg-TEQ/L

※調査実施日 清掃センター下流の1地点 平成27年11月25日

(4) 周辺土壌

調査場所	平成27年度	環境基準値	単位
カシオ東側水田	18	1000以下	pg-TEQ/g
清掃センター西側水田	12		pg-TEQ/g
清掃センター西側水田	1.4		pg-TEQ/g
清掃センター西側畑地	13		pg-TEQ/g

※調査実施日 4地点 平成27年11月25日

(5) 煙突排出ガス

調査場所		平成27年度	排出基準値	単位
1号炉排ガス	第1回目	0.023	1以下	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
	第2回目	0.018		ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
2号炉排ガス	第1回目	0.022		ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
	第2回目	0.026		ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
3号炉排ガス	第1回目	0.033		ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
	第2回目	0.062		ng-TEQ/m <sup>3</sup> N

※調査実施日 ・1号炉 1回目：平成27年4月20日 2回目：平成27年6月5日  
・2号炉 1回目：平成27年6月30日 2回目：平成27年10月15日  
・3号炉 1回目：平成27年4月17日 2回目：平成27年12月14日

## 2. 調査結果の評価

### (1) 大気

調査地点の2地点において年2回調査し、ともに環境基準値の範囲内であった。

### (2) 周辺地下水

調査地点の2地点において、環境基準値の範囲内であった。

### (3) 周辺河川水

調査地点の1地点において、ともに環境基準値の範囲内であった。

### (4) 周辺土壌

調査地点の4地点において、ともに環境基準値の範囲内であった。

### (5) 煙突排出ガス

排出ガスの調査については、煙突は3本あり各1本につき年2回調査し、計年6回実施してともに排出基準値の範囲内であった。

#### ※単位について

- ・pg(ピコグラム) = 1兆分の1グラム
- ・ng(ナノグラム) = 10億分の1グラム
- ・TEQ/L : 水1リットル当りのダイオキシン類毒性等量
- ・TEQ/g : 土壌1グラム当りのダイオキシン類毒性等量
- ・m<sup>3</sup>N(ノルマルリューベ) : m<sup>3</sup>(1立法メートル)当りの空気をN(ノルマル、標準状態0度、1気圧)に換算した気体の体積を表す単位
- ・TEQ(毒性等量) : ダイオキシン類は異性体によって毒性が異なるため、最も毒性が強い異性体の量に換算して評価したものを表す単位

#### ◎単位についての例え

1pg(ピコグラム)で例えると、東京ドームに相当する体積の入れ物を水でいっぱいにした場合の重さが約1兆グラムとされています。  
このため、東京ドームに相当する入れ物に水を満たして角砂糖1個(1グラム)を溶かした場合を想定すると、その水1グラムに含まれている砂糖が1pg(ピコグラム)になります。